

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03501

研究課題名(和文) 間帝國的関係性からみた植民地支配と抵抗 比較・協力・並存・移動の史的構造

研究課題名(英文) Colonialism and anti-colonialism as seen from the perspective of trans-imperial relationality: the historical structures of comparison, collaboration, co-existence, and movement

研究代表者

水谷 智 (Mizutani, Satoshi)

同志社大学・グローバル地域文化学部・教授

研究者番号：90411074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：これまで行われてきた複数の植民地帝国を扱う共同歴史研究の主流は、あらかじめ個別に研究されたものを事後的に比べるという「比較研究」であった。それに対し、本研究は「間-帝国史(trans-imperial history)」という新概念をかけた、比較を行うのではなく、互いがいかに比較し合ったかを含めて異なる帝国間の同時代的関係性を歴史化することを目指した。研究の成果はその途中経過を国内外のシンポジウム等で公開し、最終的には国際学術誌の特集号というかたちで活字化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

4年間の共同研究の結果、「間-帝国史研究」のための理論・方法論の構築のための論点を整理し、いくつかのモデル・ケースを提示することができた。これにより、帝国史研究全体を賦活し、より多くの歴史研究者を間-帝国史研究への参入に促すという本研究の意義を程度達成することができた。

研究成果の概要(英文)：Whenever historians gather together to study various empires in a collaborative setting, they tend to conduct 'comparative research', first treating each of the empires separately and then compare them later. In contrast, our group took a 'trans-imperial' approach. Rather than merely comparing different empires, we tried to describe and analyze how the different empires in question interacted with one another in their (trans-)formations, and how they themselves used comparison as a medium to engage in such interactions. The results of our research were presented at several symposiums and workshops before finally published in an international academic journal.

研究分野：植民地研究

キーワード：植民地主義 反植民地主義 帝国 歴史学 比較のポリティクス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

海外でも国内でも、植民地主義および反植民地主義に関する超域的な共同研究は、いわゆる「比較研究」の枠内に長らくとどまってきた。つまり、さまざまな帝国の研究者が、自分が専門とする帝国内での植民地主義や反植民地主義に関してまず歴史研究を行い、その後にそれらを持ち寄って共同で比較を行うことでそれぞれの特徴の抽出とそれを通じた類型化を行うというものである。こうした「比較研究」は重要な示唆を提供することもあるが、克服すべき問題も存在する。比較が暗に「イギリス的」、「フランス的」といった国柄の存在を前提にする傾向が強い限りにおいて、植民地研究は研究のグローバル化に凶らずも逆行してしまっている。また、異なる帝国の植民地史を別々に研究した上で事後的な視点から比較するという手法は、同時代的な間帝国な関係性への問いを閉ざしかねない弱点を孕んでいる。

こうした問題への認識から、アメリカの歴史人類学者のアン・ストーラーは、2007年の共編著 *Imperial Formations* において、「間・帝國的」(trans-imperial) な関係性からみた植民地研究の必要性を提唱した。複数の近代帝国の相互影響関係を前景化し、その文脈に各々の植民地主義と反植民地主義を捉えて再考するにはどうすればよいのか。さまざまな植民地的文脈を専門とする歴史研究者が集まり、間帝國的な関係性に焦点を絞って行う共同研究は2014年にイギリスで初めて開催され (*The Politics of Colonial Comparison* [於オックスフォード大学])、研究代表者の水谷も報告者として参加していた。こうした動向を踏まえたうえで、2016年から始まった本研究は、日本帝国を軸に据えることで国際的な独自性をうち出していくことを目的のひとつとして立ち上げられた。言語の壁もあり、欧米の共同研究ではしばしば日本帝国の植民地統治や反植民地運動が無視されるかたちで議論がなされてきた。しかし、間帝國的な関係性——なかでも統治や抵抗の手段としての〈比較〉——に関する限り、日本帝国は事例としては最も研究価値の高いもののひとつである。なぜなら、アメリカ合衆国やドイツと並んで、日本が植民地帝国としては後発的な位置にあったため、支配者にとっても抵抗者にとっても、他帝国の経験を比較参照することが極めて重要だったからである。本研究は、参加者が全員日本人であることを最大限活かし、海外で進展しつつある新たな研究領域および手法をただ受動的に受け入れるにとどまらず、それにたいして能動的に学術貢献を行うことを目指した。

### 2. 研究の目的

帝国主義競争によって世界が急速に一体化していった19世紀後半以降、植民地支配およびそれへの抵抗は、同時代に並存する諸帝国間の密接な関係性のなかで展開された。それらは、理論と実践の両面において、ひとつの帝国のなかで完結しうるものではなく、諸帝国間の複雑かつ可変的な関係性—同盟下の協力や戦時下の対立—に大きく左右された。本研究の目的は、植民地主義と反植民地主義の世界史を、こうした関係性に着目して描き直すことであった。同時に、複数の植民地帝国間の関係性に関心のあるより多くの歴史研究者が間・帝国土史研究に参入していけるよう、誰もが参照可能なモデル事例および理論・方法的な枠組みを提示することを目的とした。

### 3. 研究の方法

これまで個別に研究されてきた植民地主義下の支配と抵抗をめぐる様々な歴史を一貫した視座のもとに歴史学的に追究するために、英・仏・蘭・独・米の各帝国内の植民地 (英領インド・仏領インドシナ・蘭領東インド、等) における支配と抵抗を、日本帝国内の朝鮮・台湾・満州におけるものとの同時代的な連関を事例研究の軸として設定した。その上で、間帝國的関係性を〈比較〉〈協力〉〈並存〉〈移動〉という相互に綿密に連関する4つの種類に分類し (図1参照)、さらにそれぞれを3つのレベル——すなわち、[支配者同士]、[支配者と抵抗者]、[抵抗者同士]——において分析した (図2参照)。これによって、台湾や蘭領東インドといったさまざまな植民地的文脈に関して各メンバーが行う実証研究を全体の中に厳密に位置づけ、常に一貫したペースペクティブから共同研究を遂行した。本研究は、上記の4つの種類ごとに、以下を明らかにすることを試みた：

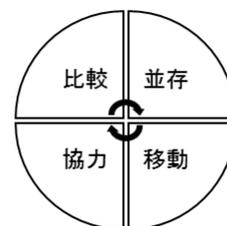


図1：関係性の種類

#### <比較>

植民地主義と反植民地主義の両方にとって、他帝国の理論や実践を比較参照することがいかに重要であったか。(例：朝鮮の保護国化における比較対象としてのエジプト、あるいは朝鮮独立運動のモデルとしてのインド独立運動)

#### <協力>

支配者および被支配者はなぜ、そしていかにして他帝国に協力を求めたのか。(例：日英同盟下の日英の間帝國的協力や、同盟終結後の反英主義の高まりにおけるインド独立運動家と日本帝国の協力関係)

		レベル		
		支配者と支配者	支配者と抵抗者	抵抗者と抵抗者
種類	比較			
	協力			
	共存			
	移動			

#### <並存>

ひとつの空間に異なる帝国が折り重なって存在する文脈において、それぞれの支配者同士のあいだでどのような協力・競争・比較が行われたのか。(例：第二次大戦中にインドシナを共同統治したフランスと日本)。

図2：関係性のレベル

#### <移動>

異なる帝国をまたがるかたちで起こる人の移動が、法的地位、序列化された「人種」・民族の世界観をめぐる議論、そして各帝国の入国管理体制にどう関係したのか。(例：日本帝国の臣民としての「台湾人」の蘭領東インドへの移動)

## 4. 研究成果

日本において「間-帝国史研究」をゼロから立ち上げた上記研究には試験的な意味合いがあり、無理なく確実に共同歴史研究を行うために対象を日本帝国と他の帝国の関係に絞った。その結果、期間中にいくつかのテーマに関しては研究が進展し、成果を公表できた。2年目の2017年度の6月には、メンバーのうち水谷・西山・吉田・難波が共同パネル‘Beyond Comparison: Japan and Its Colonial Empire in Trans-imperial Relations’を結成しAAS-in-Asia at Korea Universityに参加し、研究の途中経過を発表した。7月には、他の科研との共催でシンポジウム「<はざま>から再考する帝国史」を同志社大学において開催した。2月には、ドイツ人研究者レベッカ・ハーバース氏を招聘し、公開講演会「ロスト・イン・トランスレーション—ドイツ帝国における植民地スキャンダル」を他の科研との共催で開催した。研究代表者の水谷は、これらの成果を「『間-帝国史 trans-imperial history』論」という論文にまとめ、3年目の2018年度の7月刊行の『日本植民地研究の論点』(岩波書店)に掲載された。3月3日には同志社大学において公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的 (trans-imperial) 視座からの日本植民地研究」を開催し、本科研の成果を一般に公開した。こうした共同研究の最終成果は、最終年の2019年度の9月刊行の *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review* の特集‘Beyond Comparison: Japan and Its Colonial Empire in Transimperial Relations’へのゲスト編集・寄稿というかたちでまとめられ、活字化された。

本研究はモデル事例の提示という意味では一定の成果を上げることができた。ただし、間-帝国史の理論・方法論を確立することで多くの研究者の参入を促し、それを帝国史の一領域として持続的に存立させるという長期的目標に鑑みた場合、まだ十分とはいえない。今後は、「日本帝国に関わる事象を研究対象とする」という前研究の限定を解除することで実証研究の対象を拡大し、さらに多様な事象を扱うことによってより包括的に研究を行うことが必要となってくるであろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 松浦正孝	4. 巻 100
2. 論文標題 「満洲事変後の総合開発プロジェクトと戦後日本」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立教法学』	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 難波ちづる	4. 巻 32
2. 論文標題 "Between Colony and Metropole: Repatriation of Vietnamese Workers from Post-war France"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Moussons	6. 最初と最後の頁 109-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 難波ちづる	4. 巻 84（2）
2. 論文標題 「インドシナにおけるフランス植民地支配の終焉ーゴム・プランテーションにおける労働問題を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『社会経済史学』	6. 最初と最後の頁 77-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西山暁義	4. 巻 32
2. 論文標題 "Reconciliation en Europe, Reconciliation en Asie de l'Est. Des itinéraires différents"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Le Courrier du Memorial. Bulletin de liaison des Amis du Memorial de l'Alsace-Moselle	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田雅博、川崎亜紀子、西山暁義	4. 巻 37
2. 論文標題 「小特集：ナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリー 教育・布教・東西の邂逅」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『青山史学』	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 レベッカ・ハーバーマス (西山暁義訳)	4. 巻 37
2. 論文標題 「グローバル・ヒストリーのなかの宗教伝道：植民地時代における知の生産」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『青山史学』	6. 最初と最後の頁 39-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンドレアス・ヴァイス (西山暁義訳)	4. 巻 37
2. 論文標題 「古い帝国とその未来：ベルリン、日本、アジアの近代についての問い」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『青山史学』	6. 最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田信	4. 巻 31 (5)
2. 論文標題 「旅券・国籍・公定アイデンティティ - 蘭印における台湾籍民の国籍証明をめぐる - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立命館国際研究』	6. 最初と最後の頁 23-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Mizutani	4. 巻 10
2. 論文標題 'Semi-educated natives' as a source of imperial anxiety: the politics of English education and bureaucratic recruitment in Bengal, ca.1830-1880	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bangabidya: International Journal of Bengal Studies	6. 最初と最後の頁 536-557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Mizutani	4. 巻 23
2. 論文標題 Recovering the Subject in the Shadows of Empires: Colonial Violence and Resistance in Taiwan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cross-Currents E-Journal	6. 最初と最後の頁 234-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田信	4. 巻 7
2. 論文標題 オランダ領東インドにおける旅券制度の展開 - 植民地パスポートの様式と機能をめぐって -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際社会研究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nariaki Nakazato	4. 巻 1
2. 論文標題 Writing about the Partition Riots of India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Romanian Journal of Indian Studies	6. 最初と最後の頁 9-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ゲルト・クルマイヒ（西山暁義訳）	4. 巻 10
2. 論文標題 戦争責任から国際化へ 第一次世界大戦研究の回顧と展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ゲンヒテ	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水谷智	4. 巻 19
2. 論文標題 駒込史学が広げる間帝國的な視座の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 77-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水谷智	4. 巻 24
2. 論文標題 A Review of Takeshi Komagome, Colonial Rule in Taiwan in World History: From the Perspective of the Tainan Presbyterian Middle School	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cross-Currents: East Asian History and Culture Review	6. 最初と最後の頁 234-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里成章	4. 巻 21
2. 論文標題 パル意見書 その思想的・政治的背景	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 年報日本現代史	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chizuru Namba	4. 巻 -
2. 論文標題 France's Attempts to Face its Past over its Partnership with the Japanese in the Control of Indochina with a Focus on the Process of Japanese War Crimes Trials	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Vietnam-Indochina-Japan Relations during the Second World War: Documents and Interpretations, Waseda University Institute of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 143-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Nishiyama	4. 巻 1
2. 論文標題 Geschichtskrieg über den Weltkrieg? Die aktuellen Debatten um Weltkultur- und Weltokumentenerben in und um Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Dhau. Jahrbuch fuer aussereuropaeische Geschichte	6. 最初と最後の頁 185-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山暁義	4. 巻 694
2. 論文標題 ドイツの「サンボ」：帝政期ドイツにおける児童向け絵本と植民地主義	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒込武	4. 巻 3
2. 論文標題 林獻堂日記にみる脱植民地化の隘路	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同志社コリア研究叢書 日記からみた東アジアの冷戦	6. 最初と最後の頁 11-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒込武	4. 巻 19
2. 論文標題 「帝国のはざま」を思考すること 書評への応答	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦正孝	4. 巻 95
2. 論文標題 財界人たちの政治とアジア主義 村田省蔵・藤山愛一郎・水野成夫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立教法学	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00014536	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 'Taiwan as a trans-imperial space: W. M. H. Kirkwood and Japanese colonialism'
3. 学会等名 The Third World Congress of Taiwan Studies (8 September 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 「日本で活動したインドの独立運動家と朝鮮ーラス・ビハリ・ボースと朝鮮」
3. 学会等名 国際学術会議「アジア太平洋戦争と主権・民族・地域秩序」(2018年12月7日、ソウル大学人文学研究院) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 「インド独立運動家R.B. ポースと植民地朝鮮：日本の汎アジア主義と<間-帝国>的な協働 / 相互補完性の論理」
3. 学会等名 公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的（trans-imperial）視座からの日本植民地研究」（2019年3月3日、同志社大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 「蘭印の台湾籍民 帝国間を移動する人たちの旅券と国籍をめぐって」
3. 学会等名 公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的（trans-imperial）視座からの日本植民地研究」（2019年3月3日、同志社大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 "Migration of Chinese from Dutch East Indies to Taiwan"
3. 学会等名 Contextualizing Taiwanese & Chinese Presented in Southeast Asia and Southeast Asians in Taiwan—in Both Historical and Contemporary Perspectives (Taipei, 6-7 March 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Mizutani
2. 発表標題 British attitudes to Korea's claim for independence, ca. 1905-20 the trans-imperial significance of Britain's colonial experience in India and Egypt
3. 学会等名 The 3rd Tubingen-Doshisha-Korea University Conference (Doshisha University, 30 September 2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Mizutani
2. 発表標題 Indian Anti-colonialism in Trans-imperial Interactions: Tagore, R. B. Bose and their Politics of Comparison over Japanese Colonialism in Korea
3. 学会等名 In-Between Empires Trans-imperial History in a Global Age (Humboldt-Universität zu Berlin, 15 September 2017) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makoto Yoshida
2. 発表標題 Proving 'Japaneseness': passport control and the problem of identification in the Dutch East Indies'
3. 学会等名 AAS-in-ASIA Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 「蘭印の『贋日本人』 - 旅券と身分証明をめぐって」
3. 学会等名 比較地域研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 難波ちづる
2. 発表標題 Between Colony and Metropole: Repatriation of Indochinese Workers from Post - war France
3. 学会等名 International Conference on Colonial Mobilization in Africa and Asia during the Second World War: Soldiers, Labourers and Women, (2018年3月22日-23日、京都)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西山暁義
2. 発表標題 合評会 クリストファー・クラーク著、小原淳訳『夢遊病者たち - 第一次世界大戦はいかにして始まったか』（みすず書房、2017年）
3. 学会等名 現代史研究会（2017年11月18日、於明治大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西山暁義
2. 発表標題 暴力教育の世紀末から『子供の世紀』へ？ 19世紀末ドイツの学校教育における体罰
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第19期「身体・環境史研究会」（代表：服部伸）、2017年11月5日（於同志社大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 英領インド史研究および「閻帝国」研究の視点から
3. 学会等名 シンポジウム：「<はざま>から再考する帝国史」、7月16日（日）、同志社大学烏丸キャンパス志高館SK118
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 Trans-imperial genealogies of Korea as a protectorate: the Egypt model in Japan's politics of colonial comparison
3. 学会等名 The 2nd TUDOKU (Tubingen-Doshisha-Korea University) Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 水谷智
2. 発表標題 Contentious comparisons: the British empire and Korea's claim for independence from Japan c.1905-1925
3. 学会等名 Imperial Comparison (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中里成章
2. 発表標題 バル意見書とインド政府
3. 学会等名 東京裁判と世界平和国際学術フォーラム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西山暁義
2. 発表標題 コメント「グローバリゼーションのなかで歴史を書くこと：近代歴史学思想へのトランスナショナル・アプローチ」
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 帝国間の人々の移動について
3. 学会等名 「間帝国科研」第1回研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YOSOHIDA, Makoto
2. 発表標題 Institutionalizing the passport in the colony
3. 学会等名 Royal Netherlands Institute of South East Asian and Caribbean Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 オランダ領東インドにおける旅券制度と移動の自由
3. 学会等名 「朱印船科研」第7回研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YOSHIDA, Makoto
2. 発表標題 Passport system in the colony: a case of the Dutch East Indies
3. 学会等名 ESP The 18th GENERAL MEETING
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 「日本人法」の射程：台湾籍民の移動をめぐって
3. 学会等名 「間帝国科研」第2回研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 駒込毅、水谷智、他（日本植民地研究会編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 『日本植民地研究の論点』	

1. 著者名 上田信、中里成章、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 472
3. 書名 『悪の歴史 東アジア編【下】南・東南アジア編』	

1. 著者名 松沢裕作、難波ちづる、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 『森林と権力の比較史』	

1. 著者名 松方冬子、吉田信、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 『国書がむすぶ外交』	

1. 著者名 弘末雅士(編者)、高橋秀樹、清水和裕、上田信、渡邊佳成、荷見守義、荒野泰典、和田郁子、疇谷憲洋、唐澤達之、鈴木英明、守川知子、弘末雅士、佐々木洋子、中里成章、石川禎浩、土田映子、栗田和明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 354
3. 書名 海と陸の織りなす世界史	

1. 著者名 柳沢遊、木村健二、張曉紅、細谷亨、前田廉孝、倉沢愛子、高柳友彦、佐々木啓、金明洙、平山勉、山本裕、難波ちづる	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 488
3. 書名 日本帝国の崩壊 人の移動と地域社会の変動	

1. 著者名 剣持久木、川喜田敦子、安原伸一郎、吉岡潤、ファブリス・ヴィルジリ、ステファン・オードワン=ルゾー、末次圭介、西山暁義、近藤孝弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 越境する歴史認識：ヨーロッパにおける「公共史」の試み	

1. 著者名 岸本美緒、廣瀬憲雄、野田仁、黒木英充、加藤玄、中澤達哉、川戸貴史、横山百合子、高澤紀恵、小野沢あかね、飯島渉、池田嘉郎、三品英恵、成田龍一、須田努、松沢裕作、西山暁義、永野善子、鈴木茂	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 303
3. 書名 第4次現代歴史学の成果と課題 (2)世界史像の再構成	

1. 著者名 松尾法博、飯塚直、西山暎義、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 310
3. 書名 歴史を社会に活かす・楽しむ・学ぶ・伝える・観る	

1. 著者名 Akiyoshi Nishiyama et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Les Arenes	5. 総ページ数 1385
3. 書名 Europa, notre histoire	

1. 著者名 Nariaki Nakazato	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Lexington Books (Lanham, MD, USA)	5. 総ページ数 302
3. 書名 Neonationalist Mythology in Postwar Japan: Pal's Dissenting Judgment at the Tokyo War Crimes Tribunal	

1. 著者名 平田雅博、割田聖史、安村直樹、佐々木洋子、西山暎義、川崎亜紀子、川手圭一、原聖	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 289 ( 105-131 )
3. 書名 帝国・国民・言語 境界という視点から	

1. 著者名 森井裕一、安達亜紀、飯田洋介、猪狩弘美、石田勇治、井関正久、板橋拓己、岩崎周一、岩間陽子、川喜田敦子、菊池雄太、小林繁子、近藤正基、齋藤正樹、櫻井文子、進藤修一、妹尾哲志、高津秀之、田口正樹、田中素香、西山暁義ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388 (14-20)
3. 書名 ドイツの歴史を知るための50章	

1. 著者名 黄自進、劉建輝、戸部良一、松浦正孝ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 <日中戦争>とは何だったのか - 複眼的視点	

1. 著者名 島田弦 (編), 吉田信, 川村晃一他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 565
3. 書名 アジア法整備支援双書第1巻「インドネシア」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

STIH (Studies in Trans-imperial Histories) <a href="http://trans-imperial.site/">http://trans-imperial.site/</a> STIH (Studies in Trans-Imperial Histories) <a href="http://trans-imperial.site/">http://trans-imperial.site/</a>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	難波 ちづる (Namba Chizuru) (20296734)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・准教授  (32612)	
研究分担者	中里 成章 (Nakazato Nariaki) (30114581)	東京大学・東洋文化研究所・名誉教授  (12601)	
研究分担者	吉田 信 (Makoto Yoshida) (60314457)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授  (27103)	
研究分担者	西山 暁義 (Akiyoshi Nishiyama) (80348606)	共立女子大学・国際学部・教授  (32608)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的(trans-imperial)視座からの日本植 民地研究」2019年3月3日、同志社大学	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------